

# 第一講

## 漢文読解の基礎

〈漢文の文構造〉… 「 」 と語順が似ている

季康子問<sup>フ</sup>政<sup>まつりごと</sup>於孔子<sup>一</sup>。  
\*季康子…人名 \*政…政治

季康子政「孔子」問ふ。

〈返り点〉…文字が下から上に返るときに付く

レ点	「 返る
一・二点	「 返る 「 返る
※一・二・三・四と続く	
上・下点	「 返る
※上・中・下点となる場合もある	
甲・乙点	「 返る
※甲・乙・丙・丁と続く	

◆返り点にしたがって、□の中に読む順序を数字で記入してみよう。

① □<sub>レ</sub> □<sub>二</sub> □<sub>一</sub> □<sub>一</sub>。

② □<sub>三</sub> □<sub>二</sub> □<sub>二</sub> □<sub>一</sub>。

③ □<sub>レ</sub> □<sub>レ</sub> □<sub>二</sub> □<sub>レ</sub> □<sub>レ</sub> □<sub>一</sub>。

④ □<sub>下</sub> □<sub>二</sub> □<sub>一</sub> □<sub>一</sub> □<sub>上</sub> □<sub>レ</sub> □<sub>一</sub>。

⑤ □<sub>三</sub> □<sub>二</sub> □<sub>一</sub> □<sub>レ</sub> □<sub>二</sub> □<sub>二</sub> □<sub>一</sub>。

〈書き下し文〉

- (1) 漢字と仮名を用いて書く
- (2) 旧仮名遣いを用いる
- (3) 「 」と「 」  
「 」は仮名で書く
- (4) 「 」  
「 」は書かない

◆ 次の文を書き下しなさい。

- ① 人生如<sub>シ</sub>朝露<sub>ノ</sub>。

- ② 父母之年、不可<sub>レ</sub>不知<sub>レ</sub>也。

- ③ 楚人<sub>ニ</sub>有<sub>リ</sub>鬻<sub>ヒ</sub>盾<sub>ヲ</sub>与<sub>レ</sub>矛<sub>者</sub>也。

再読文字

再読文字には必ず返り点がつく。その字が出てきたところでまず一度読み、次に返り点に従って二度目を読む。

一度目は「①

」として、二度目は「②

」としての働きをもつ。

◆書き下し文を参考にして、返り点をつけてみよう！。

不知老之将至。

〔書き下し文〕老いの将に至らんとするを知らず

	再読文字	読み	意味（現代語訳）
7	盍		
6	猶		
5	宜		
4	須		
3	当・ 应		
2	将・ 且		
1	未		

◆ 次の傍線部を書き下し、現代語訳してみよう。

(1) 見<sup>テ</sup>牛<sup>ヲ</sup> 未<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>羊<sup>也</sup>。

書き下し文	牛を見て「 牛を見て」
現代語訳	「 」。

(2) 船<sup>ヲ</sup> 沈<sup>ル</sup>。

書き下し文	
現代語訳	

(3) 当<sup>レ</sup>殺<sup>レ</sup>之<sup>也</sup>。

書き下し文	
現代語訳	

(4) 須<sup>レ</sup>重<sup>ニ</sup>礼<sup>儀</sup>。

書き下し文	
現代語訳	

(5) 惟<sup>ダ</sup>仁<sup>者</sup> 宜<sup>シ</sup>在<sup>ニ</sup>高<sup>位</sup>。

書き下し文	惟だ仁者のみ「 」。
現代語訳	仁者だけが「 」。

(6) 過<sup>ギタルハ</sup> 猶<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>及<sup>ズ</sup>。

書き下し文	過ぎたるは「 」。
現代語訳	行き過ぎているのは「 」。

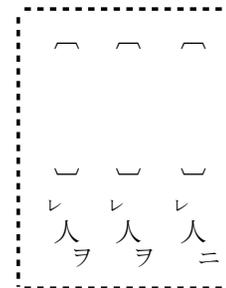
(7) 盍<sup>ニ</sup>為<sup>レ</sup>我<sup>言</sup>之<sup>也</sup>。

書き下し文	
現代語訳	



B 使役の「」を用いる

S



V (セ)

〔意味〕	〔書き下し文〕		
<p>Sは</p> <p>人を <input type="text"/></p> <p>人を <input type="text"/></p> <p>人に <input type="text"/></p> <p>V <input type="text"/></p> <p><input type="text"/></p>	<p>S</p> <p>人を <input type="text"/></p> <p>人を <input type="text"/></p> <p>人に <input type="text"/></p> <p>V (セ) <input type="text"/></p> <p><input type="text"/></p>		

次の文章を書き下し、現代語訳せよ。

命二故 人 書レ之。

現代語訳	書き下し文



受身の句形

為<sub>レ</sub> A 所<sub>レ</sub> B

【読み】

【意味】

※Aには「

」、Bには「

」が入る。

次の文章の読み方として正しいものを選択肢より選び、現代語訳せよ。

所居為山水所浸。

- ① 居る所山水に浸さるる所と為る。
- ② 居る所に山水の浸す所と為す。
- ③ 居る所の山水に浸さるる所と為る。
- ④ 居る所山水の浸す所と為る。
- ⑤ 居る所山水の為に浸す所なり。

現代語訳

--

次の文章を書き下し、現代語訳せよ。

(1) 欺<sub>レ</sub>人者却<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>人所欺。

書き下し文	人を欺く者は却つて「
現代語訳	人をだますものはかえつて「
	」。

(2) 先則制<sub>レ</sub>人、後則為<sub>レ</sub>二人所<sub>レ</sub>制。 ※後(おくる)

書き下し文	先んずれば則ち人を制し、「
現代語訳	先手を打てば人を抑えることができ、「
	」。

〈否定〉

◎基本の否定語

	漢字	読み	意味
① 不 <sub>ニ</sub> ……一	弗		
② 無 <sub>ニ</sub> ……一	莫・勿・毋		
③ 無 <sub>ニ</sub> ……一			
④ 非 <sub>ニ</sub> ……一	匪		

次の空欄ア、イに当てはまる適当な漢字を答え、書き下し文を完成させよ。

(1) 己<sub>レ</sub> 所<sub>レ</sub> **ア** <sub>レ</sub> 欲<sub>セ</sub> **イ** <sub>レ</sub> 施<sub>ス</sub> <sub>ニ</sub> 於<sub>ニ</sub> 人<sub>一</sub>。

空欄 <b>ア</b>	空欄 <b>イ</b>
書き下し文	己の欲せ「 <sub>レ</sub> 」所人に施すこと「 <sub>レ</sub> 」。
現代語訳	自分がしてほしくないことは人にしてはならない。

(2) **ウ** <sub>レ</sub> 費<sub>ニ</sub> 牛<sub>一</sub> 酒<sub>一</sub>、終<sub>ニ</sub> **エ** <sub>ニ</sub> 火<sub>一</sub> 患<sub>一</sub>。

空欄 <b>ウ</b>	空欄 <b>エ</b>
書き下し文	牛酒を「 <sub>レ</sub> 」、終に火の患ひ「 <sub>レ</sub> 」。
現代語訳	牛や酒を消費することもせず、結局火事による災患もなかった。

(3) 此<sub>レ</sub> 天<sub>一</sub> 之<sub>レ</sub> 亡<sub>レ</sub> <sub>ボスニシテ</sub> 我<sub>一</sub>、**オ** <sub>ニ</sub> 戦<sub>一</sub> 之<sub>レ</sub> 罪<sub>一</sub> 也。

空欄 <b>オ</b>	
書き下し文	之天の我を亡ぼすにして、「 <sub>レ</sub> 」。
現代語訳	これは天が私を滅ぼすのであって、戦争の責任ではないのである。

◎頻出の否定句形

漢字	読み	意味
① 不 <sub>レ</sub> 可 <sub>二</sub> 可 <sub>一</sub> <small>カラ</small>		A
② 不 <sub>レ</sub> 能 <sub>ハ</sub>		B
③ 不 <sub>レ</sub> 得 <sub>二</sub> 得 <sub>一</sub>		

次の傍線部を書き下し、現代語訳せよ。

(1) 一寸<sub>ノ</sub>光陰<sub>ノ</sub>不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>輕<sub>。</sub> ※輕(かろんズ)

書き下し文	一寸の光陰
現代語訳	ほんのわずかな時間も

(2) 吾<sub>われ</sub>貧<sub>ニシテ</sub>而<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>求<sub>レ</sub>書<sub>。</sub>

書き下し文	吾貧にして
現代語訳	

次の文の書き下し文と現代語訳を完成させよ。

不為者与不能者之形、何以異。

【書き下し文】 「 者と」 「 者との形、何を以て異なるか。」

【現代語訳】 「 事と」 「 事は、どのように異なるのか。」

◎ 二重否定

- ※ 否定の文字を二つ重ねることで、主に「        」の意を表す
- ※ 下の否定語から先に訳す

次の傍線部を書き下し、現代語訳せよ。

(1) 非<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>説<sup>ニ</sup>子<sup>一</sup>之道<sup>一</sup>。 ※説(よろこぶ) ※子||先生 ※道||教え

書き下し文	
現代語訳	

(2) 遠<sup>レ</sup>近<sup>レ</sup>相<sup>レ</sup>伝<sup>レ</sup>、莫<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>欲<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>。

書き下し文	
現代語訳	遠くの人も近くの人も(その話を)次々と伝えていき、「 <u>        </u> 」。

◎覚えておきたい二重否定

① 未 <sup>ダ</sup> 三 <sup>テ</sup> 嘗 <sup>テ</sup> 不 <sup>ニ</sup> … <sup>一</sup>	② 不 <sup>レ</sup> 可 <sup>レ</sup> 不 <sup>ニ</sup> … <sup>一</sup>
ンバアラ	カラル
〔読み〕	〔読み〕
〔意味〕	〔意味〕

次の傍線部を書き下し、現代語訳せよ。

(1) 客<sup>レ</sup>至<sup>レ</sup>未<sup>三</sup>嘗<sup>テ</sup>不<sup>ニ</sup>置<sup>酒</sup>。 ※置酒(置酒ス) || 酒を出す

書き下し文	
現代語訳	客が来れば、「 <u>        </u> 」。

(2) 父母年不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>知也。

書き下し文	父母の年は〔
現代語訳	父母の年齢は〔

◎ 部分否定

(A) 家貧<sub>シクシテ</sub> 不<sub>レ</sub>常<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>油。

(B) 家貧<sub>シクシテ</sub> 常<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>油。

(B)		(A)	
現代語訳	家が貧しくて〔	現代語訳	家が貧しくて〔
書き下し文	家貧しくして〔	書き下し文	家貧しくして〔

〈全部否定と部分否定〉

4		3		2		1		句形	読み	意味	
② 不 <sub>二</sub> 甚 <sub>一</sub> …	① 甚 不 <sub>二</sub> …	② 不 <sub>二</sub> 俱 <sub>一</sub> …	① 俱 不 <sub>二</sub> …	② 不 <sub>二</sub> 必 <sub>一</sub> …	① 必 不 <sub>二</sub> …	② 不 <sub>二</sub> 常 <sub>一</sub> …	① 常 不 <sub>二</sub> …				部分

■国語が大事ドットコム

次の傍線部を書き下し、現代語訳せよ。

(1) 勇者、不二必有仁。

書き下し文	勇者は「
現代語訳	勇敢な者が「

(2) 流<sub>レ</sub>不二甚<sub>一</sub>急<sub>一</sub>。

書き下し文	流れ「
現代語訳	流れは「

〈その他覚えておきたい否定形〉

句形	読み	意味
① 復 不 <sub>二</sub> … <sub>一</sub>		
② 不 <sub>二</sub> 復… <sub>一</sub>		

次のA・Bの傍線部を書き下し、意味の違いが分かるように現代語訳せよ。

(A) 迷<sub>レ</sub>不<sub>二</sub>復<sub>一</sub>得<sub>レ</sub>路。

(B) 迷<sub>レ</sub>復<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>路。

(A)		(B)	
書き下し文	迷ひて「	書き下し文	迷ひて「
現代語訳	迷って「	現代語訳	迷って「

〈その他覚えておきたい否定形2〉

句形	読み	意味
① 敢 不…		
② 不 敢…		

次の傍線部を書き下し、現代語訳せよ。

(1) 不<sub>レ</sub>敢<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>邪心<sub>一</sub>。

書き下し文	
現代語訳	

(2) 敢<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>走<sub>レ</sub>乎。 ※走…ここでは「走って逃げる」の意

書き下し文	
現代語訳	

〈その他覚えておきたい否定形3〉

句形	読み	意味
不 <sub>レ</sub> 可 <sub>二</sub> 勝…		

次の傍線部を書き下し、現代語訳せよ。

穀 不<sub>レ</sub>可<sub>二</sub>勝<sub>一</sub> 食<sub>一</sub>也。

書き下し文	穀 <sub>一</sub>
現代語訳	穀物は <sub>一</sub>



⑩	如何	奈何・如何	いかん(ゾ)	【反語】どうして〜か、いや〜ない
⑨	何如	何奈・何若	G いかナル	【疑問】どうして・どのように 【反語】どうしようか、いやどうしようもない
⑧	幾何	幾許	F いかん	どのようか
⑦	豈		E	どうして
⑥	何以		なにヲもつテ	D
⑤	何為	奚為・胡為	C	どうして
④	孰	奚	たれ(ヲ)カ いづレ(ヲ)カ	誰が(誰を) どちらが(どちらを)
③	誰		たれ(ヲ)カ	誰が(誰を)
②	安	焉・惡・寧	A いづクニカ	B どうして
①	何	奚・胡	なんゾ なにヲ(カ) いづクニ(カ) いづレ(ノ・カ)	どうして なにを どこに どれ・どちら・なんの
	疑問詞	同じ意味の漢字	読み	意味

次の傍線部を現代語訳を参考にして書き下せ。

(1) 沛公安在。

書き下し文	
現代語訳	沛公はどこにいるのか。

(2) 君安与二項伯一有<sub>レ</sub>故。

書き下し文	
現代語訳	君はどうして項伯と親交があるのか。

(3) 奈何憂<sub>二</sub>崩墜<sub>一</sub>邪。 ※崩遂 || 天が崩れ落ちること

書き下し文	
現代語訳	どうして天が崩れ落ちるのを心配することがあるのか、いやない。

(4) 諸侯不<sub>レ</sub>従奈何。

書き下し文	
現代語訳	諸侯たちで従わない者はどうしたらよいか。

(5) 月白<sub>ク</sub>風清<sub>シ</sub>。如<sub>二</sub>此良夜<sub>一</sub>何。

書き下し文	月白く、風清し。 。
現代語訳	月は明るく、風はすがすがしい。この素晴らしい夜をどのように過ごしたらよいだろうか。



◎比較形

置き字を用いる

【A】ハ  
形容詞  
形容動詞

二	〔	〔	〔
	〕	〕	〕

【B】ハ  
一

〔意味〕

※【A】と【B】は比較対象となりうる語であることが条件。

比較級

氷 寒<sup>二</sup>於 水<sup>一</sup>。

書き下し文 氷は〔

〕。

現代語訳

氷は〔

〕。

比較の句形

【A】ハ  
不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>

【B】ハ

【読み】

〔意味〕

※「如」と同じ用法の漢字として「」がある。

※【A】と【B】は比較対象となりうる語であることが条件。

比較級

地<sup>ノ</sup>利<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>二人<sup>ノ</sup>和<sup>一</sup>。

書き下し文 地の利は〔

〕。

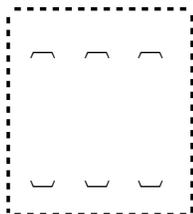
現代語訳

地勢の有利さは〔

〕。

置き字を用いる

【A】 無<sup>シ</sup>  
 形容詞<sup>ハ</sup>  
 形容動詞<sup>ニ</sup>



【B】  
 一 「  
 一 「

〔意味〕

※「無」と同じ用法の漢字として「  
 一」がある。  
 ※【A】は範囲や対象をあらわす。

最上級

天 下 莫<sup>三</sup> 柔<sup>二</sup> 弱 於 水<sup>一</sup>。

書き下し文 天下「

」。

現代語訳

この世に「

」。

最上級の句形

【A】 無<sup>レ</sup> 如<sup>レ</sup> 【B】 「  
 一」 「  
 一」

【読み】

〔意味〕

※「如」と同じ用法の漢字として「  
 一」がある。  
 ※「無」と同じ用法の漢字として「  
 一」がある。  
 ※【A】は範囲や対象をあらわす。

最上級

衣 莫<sup>レ</sup> 若<sup>レ</sup> 新、人 莫<sup>レ</sup> 若<sup>レ</sup> 故。

書き下し文

衣は「

」、人は「

書き下し文

衣服は「

」、人は「

現代語訳

」。

」。



(3) 庸人尚差<sup>レ</sup>之、而況<sup>二</sup>将相<sup>一</sup>「」。

※庸人<sup>二</sup>凡人<sup>一</sup> ※将<sup>二</sup>將軍<sup>一</sup> ※相<sup>二</sup>宰相<sup>一</sup>

書き下し文	庸人「」 将相に「」。	「」 「之を差ぶ、」 「」 「」
現代語訳	凡人でさえこのことを恥じるのだ、「」	「」。

(4) 臣死且不<sup>レ</sup>避、卮酒安足<sup>レ</sup>辞。

※臣<sup>二</sup>一人称<sup>一</sup> ※卮酒<sup>二</sup>一杯の酒<sup>一</sup>

書き下し文	臣死すら「」 「」。	「」 「避けず、卮酒」 「」	「」 「辞するに」 「」
現代語訳	私は「」	「、なのに一杯の酒を」 「」。	

次の文の現代語訳につき、空欄にあてはまる語を、後の選択肢から選べ。

貧賤<sup>ナレバ</sup> 則<sup>チ</sup> 軽<sup>コ</sup> 易<sup>ス</sup> 之<sup>ヲ</sup> 況<sup>ンヤ</sup> 衆人<sup>ヲ</sup> 乎。

【現代語訳】

貧しく身分が低ければ、「」 「軽んじ侮る。まして何の関係もない人ならなおさらだ。

- ア 教養がある者たちは
- イ 高貴で裕福な者たちは
- ウ より貧しく身分が低い者たちでも
- エ 親切な者たちでも
- オ 親戚の者たちでも



# 第九講

## 〽限定・累加・假定〽

◎限定

副詞	①	唯・惟・只・但・直・徒・特
	②	独
助詞	「	耳・爾・而已・而已矣

※②は「」の句形でも用いられる。その場合文末は「

※限定の句形に関しては、漢字の読みが最頻出

次の文章の書き下し文を完成させよ（ただし空欄に書き入れる語はすべて平仮名で記すこと）。

(1) 天下英雄唯君与我。

天下の英雄は〔①〕君〔②〕我〔③〕。

(2) 独秦能苦赵。

〔①〕秦〔②〕能く赵を苦しむ。

◎累加

①	不二唯A。	【書き下し文】
②	豈唯A。	【現代語訳】

次の傍線部の書き下し文と現代語訳を完成させよ。

不二惟無益、而亦害之。

書き下し文	「	「、而して亦た之を害す。
現代語訳	「	「、そのうえ有害でもある。

④	縦 —、	【現代語訳】
③	雖 二— —、	【書き下し文】 ① 〓であるけれども《逆接》 ②
②	苟 —、	【現代語訳】 【書き下し文】
①	如 (若) —、	【現代語訳】 【書き下し文】

次の傍線部の書き下し文と現代語訳を完成させよ。

(1) 苟 有 二 天 運 一、 得 二 勝 利 一。 ※ 鞅 〓 天 が 定 め る 運 命

書き下し文	(1)	「天運(2)	「、勝利するを得ん。
現代語訳	(3)	勝利を得られるだろう。	「

(2) 縦 得 二 田 地 一、 失 二 兄 弟 心 一 何 如。 ※ 田地 〓 農地

書き下し文	(1)	「田地を(2)	「、兄弟の心を失ふは何如。
現代語訳	(3)	兄弟の心が離れるのは(4)	「。

(3) 王 如 不 〓 聽 〓 用 〓 鞅、 必 殺 〓 之。 ※ 鞅 〓 人名

書き下し文	王(1)	「鞅を用ゐるを(2)	「、必ず之を殺すべし。
現代語訳	王が(3)	「鞅を登用することを聞き入れないならば、必ず王を殺せ。	

◎漢詩の形式

〔A 句の数〕

四句	八句	六句または十句以上

〔B 一句の文字数〕

一句の文字数が七字	一句の文字数が五字

春望

杜甫

<p>① 国破山河在</p> <p>③ 感<sup>ジテハ</sup>時<sup>ニ</sup>花<sup>ニモ</sup>濺<sup>ソセギ</sup>涙<sup>ヲ</sup></p> <p>⑤ 烽火連<sup>ナリ</sup>三月<sup>ニ</sup></p> <p>⑦ 白頭搔<sup>カケバ</sup>更<sup>ニ</sup>短<sup>ク</sup></p>	<p>② 城春<sup>ニシテ</sup>草木深<sup>シ</sup></p> <p>④ 恨<sup>ンデハ</sup>別<sup>レヲ</sup>鳥<sup>ニモ</sup>驚<sup>カス</sup>心<sup>ヲ</sup></p> <p>⑥ 家書<sup>ナリ</sup>抵<sup>あた</sup>二<sup>ル</sup></p> <p>⑧ 渾<sup>オベテ</sup>欲<sup>ス</sup>不<sup>ラント</sup>勝<sup>たへ</sup>簪<sup>しん</sup></p>
---	---

空欄Aに当てはまる語として適切なものを選び。

- 1 宝物
- 2 万金
- 3 六年
- 4 永遠
- 5 蓮花

◎押韻

「」を同じ母音で揃える。

※ 「」の場合、第一句も押韻する。

◎対句

「」の場合、第三句と四句、第五句と六句を対句にする必要がある。

◎李白と杜甫…ともに盛唐時代の詩人

李白（りはく）	別名「	」。自然美をダイナミックに詠む。
杜甫（とほ）	別名「	」。政治批判や民衆の現状を詠む。

「春望」の書き下しと現代語訳

国破れて山河在り

国家が破壊されてしまったというのに山河は今もここにある。

城春にして草木深し

長安の町は春を迎え、草木だけが勢いよく生い茂っている。

時に感じては花にも涙を濺ぎ

世の移り変わりに心が痛み、花を見ても涙が流れる。

別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

親しい人たちとの別れを思い、鳥のさえずりに心が騒ぐ。

烽火三月に連なり

戦乱を告げるのろしは三か月の間続き、

家書万金に抵る

家からの手紙は万金に値する。

白頭搔けば更に短く

白くなった頭をかき上げるとさらに髪は薄くなっております

渾て簪に勝へざらんと欲す

もう全く簪をさすこともできない。